

# 広汎性発達障害と自閉症の診断を受けている小学5年のA児への登校支援の取組

## 1. 事例の概要

A児は、B小学校の通常の学級に在籍する広汎性発達障害と自閉症の診断を受けている小学5年である。A児は、対人関係に不安があることや、初めての環境に対して苦手意識があることから、入学以来、週に1日、決まった時間に登校するだけであった。

小学5年になり、不登校の改善と人間関係の構築や学習面での遅れを取り戻すことに重点を置いた支援を実施し、A児の思いを尊重しながら、保護者や学校、放課後等デイサービス事業所、合理的配慮協力員が話し合い、A児に対する合理的配慮の検討を行ってきた。

A児の不安を取り除くために、A児が安心して学習できる教科の授業の参加から支援を始めたことで、A児は学校で過ごす時間が増えていき、支援を継続的行った結果、A児は、毎日登校することができるようになった。

**キーワード** 広汎性発達障害、自閉症、通常の学級、登校支援、支援員、見通し

## 2. 生徒の実態

A児は、B小学校に在籍する広汎性発達障害と自閉症の診断を受けている小学5年である。A児は、対人関係に不安があることや、初めての環境に対して苦手意識があることから、入学以来、週に1日、決まった時間に登校するだけであった。小学4年になり、週に1時間、保護者同伴のもとA児が興味のある社会科等の学習や運動会等の行事に参加できるようになった。小学5年になり、自信のある教科を時間割から選び、保護者の付き添いの下、毎日1、2時間登校できるようになってきている。

## 3. 本事例に関する基礎的環境整備

- B小学校のあるC市では、各校の特別支援教育コーディネーター等を支援し、小・中学校の通常の学級に在籍する発達障害等の特別な教育的支援を必要とする児童生徒の把握や、それに基づく個別の指導計画の作成等をサポートするために「特別支援教育巡回相談員」を配置している。【基礎2】
- B小学校のあるC市では、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導・支援にあたり、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、活用することを推進している。また、C市では、保護者が安心して子どもを育み、継続した相談支援が図られるよう成長の様子や学校の記録、関係機関等の様々な情報をファイリングできる手帳を発行しており、手帳を活用し、計画を作成することを推進している。【基礎3】
- B小学校のあるC市では、通常の学級に在籍する困難さのある児童生徒への学習や生活上の支援を行う支援員を希望する学校へ配置している。支援員は、教員の補助として、学習活動における支援を行ったり、学校生活における日常生活動作の介

助を行ったりして、教育活動の支援を行っている。【基礎6】

- B小学校では、個別的な関わりを必要とする状況がある児童に対して、特別教室等を活用できるようにしている。その際、指導に当たる教職員や支援員の配置等、臨機応変に対応できるよう、連絡調整を図っている。【基礎7】

#### 4. 合意形成のプロセス

A児への支援については、保護者から申し出があり、保護者と学校、合理的配慮協力員が話し合いながら情報交換をし、合意を得た上で、共通理解を図りながら支援に当たっている。また、A児の通う放課後等デイサービス職員とも連携を図りながら支援を行っている。

#### 5. 合理的配慮の実際

- A児が苦手な算数については習熟度別のクラスを編制し、A児の理解に合わせて学習できるよう配慮している。また、学生ボランティアや学びのサポーターを配置し、A児の学習を個別に支援している。【合理①-1-1】
- A児の理解を深めるために、実物投影機で写真や具体物を映し出す等、教材について視覚的な配慮を行っている。【合理①-2-1】
- タブレット型端末を用意し、A児の学習状況を確認しながら授業を進めている。【合理①-2-1】
- A児は、授業の時、分からないことがあると不安になるため、教師の言葉掛けを丁寧に行ったり、隣に座る子どもを配慮する等の工夫を行っている。【合理①-2-3】

#### 6. 本事例の成果と課題

A児は、小学4年まで行事と決まった日時のみでの登校であったが、小学5年生になり、不登校の改善と人間関係の構築や学習面での遅れを取り戻すことに重点を置いた支援を実施した。A児の思いを尊重しながら、保護者や学校、放課後等デイサービス事業所、合理的配慮協力員が話し合い、A児に対する合理的配慮の検討を行ってきた。

A児の不安を取り除くために、A児が安心して学習できる教科の授業の参加から支援を始めたことで、A児は学校で過ごす時間が増えていった。また、学ぶ楽しさや人と関わる楽しさについての支援を行い、A児は、徐々にではあるが、学校で過ごす時間も多くなっている。

現段階では、A児は毎日登校することができているが、学習面の遅れや苦手意識のある他の児童との関係等の課題もある。今後も、関係機関等と連携しながら、A児に対する支援を充実させていきたい。